

(3) 会派代表 公明党

質問者議員 三 島 克 則

件名 1 「新たな一步を踏み出す元年」とする市長の施政方針がなされ、令和 8 年度から 10 年後の未来へと繋ぐ、「河内長野市第 6 次総合計画」がスタートする。特筆すべき点として、「シェアリング事業」について評価するものと考ええる。市長の意気込みを聞く。

件名 2 持続可能な行政経営のための「リフォーム&サステナブル」を主眼に置き、また、「河内長野版 責任ある積極財政」を観点とした、令和 8 年度当初予算編成は、現在の社会状況下でも一步踏み込んだものと考えられる。一方で、令和 8 年度以降の予算編成を考えると一抹の不安がよぎる。その不安を払拭させる未来志向な予算編成の考え方を聞く。

件名 3 行政経営の基礎構築を目指す「総務経営局」の施策について。

要旨 1 教育的アプローチ+行政的アプローチの 2 方向で解決に取り組むいじめ問題について問う。

要旨 2 「行かない・書かない・待たない」窓口と、「手のひら市役所」について問う。

要旨 3 令和 8 年 8 月から窓口業務受付を 1 時間短縮することによる職員ウェルビーイングの推進について問う。

件名 4 安全・安心・快適を追求する「都市環境安全局」の施策について。

要旨 1 近年の特殊詐欺、SNS 型投資・ロマンス詐欺や今後起こり得るだろう新たな詐欺の対策として、警察署と連携を図るのは当然のことである。市民の不安を取り除くため、本市として考える具体的な対策の強化について問う。

要旨 2 対象をすべての市民に拡大する「じこヘルさぽーと」は大いに歓迎する。一方、道路交通法の改正により、令和 8 年度から自転車に対する交通反則

通告制度（いわゆる青切符）が施行される。周知と対策について問う。

要旨 3 地域コミュニティの強化が安心・安全なまちを構築するためには必要不可欠である。考えを聞く。

件名 5 本質を探究し、着実な成長を目指す「成長戦略局」の施策について。

要旨 1 営業部が発足して1年が経とうとしている。これまでの成果と反省点は。そして、令和8年度の「まちの価値を売り込む力」と「稼ぐ力」の目標と目的について問う。

要旨 2 交流人口と移住・定住人口増加策について問う。

要旨 3 産業振興と交通インフラ強化策について問う。

要旨 4 公共交通網リ・デザイン後の影響調査の結果を踏まえて、交通空白エリアを支援する実証運行の実施、需要調査を行うとされている。移動手段は地域ごとに様々な声があることに対して、どのように対応し課題解決を見出すのか、見解を問う。

件名 6 人に寄り添い、社会と向き合う「こどもの未来とウェルビーイング推進局」の施策について。

要旨 1 市民が満足し、喜んで発信してもらえる子育て・子育ての環境整備には、日々アップデートが必要と考える。本市が寄り添い応援するこどもの未来の考え方を問う。

要旨 2 慢性的に不足する社会福祉人材の確保について問う。

件名 7 誰一人取り残さない「こどもまんなか教育」の実現を目指す「教育委員会」の施策について。

要旨 1 誰一人取り残さない教育のイメージについて問う。

要旨 2 子どもたちの目線と主体性に立った学校教育のあり方について問う。

要旨 3 この世に生まれ、終わりを遂げる瞬間まで学びの連続闘争であると考え。施政方針でも大切と位置付けている「地域がまるごと学びの場」は、子どもも大人も「作り手」として社会参画することとしている。具体的な考え

を問う。

件名 8 備える力を高める防災力について。

- 要旨 1 これまでも質問をしてきた、行政、社会福祉協議会、民間団体が連携した災害支援中間組織の三者間連携について進捗や改めての考えは。
- 要旨 2 広域的な大規模災害時における受援・応援計画について問う。
- 要旨 3 災害関連死ゼロを目指すため、日常に近い尊厳ある避難生活として、これまでのT（トイレ）、K（キッチン）、B（ベッド）の考えと、B（バス）、L（ランドリー）を加えての計画と運用が必要であると考え。見解を問う。
- 要旨 4 災害復旧、復興、生活支援には民間の災害支援ボランティア団体の現地支援活動が欠かせない存在となっている。その中でも、プロボノ系の災害支援ボランティア団体と、今後起こり得るだろう広域的な大規模災害発生までに顔の見える関係性の構築を図り、必要な連携を強化しなければならないと考える。しかし、国及び地方自治体は、復旧や復興のために必要な活動に対しての財源などの支援は、団体や個人のボランティア任せであるのが現状であると思われる。これらの課題対策も踏まえた、プロボノ系などの災害支援ボランティア団体との連携について考えを問う。

答弁を要求する理事者

市長並びに関係理事者